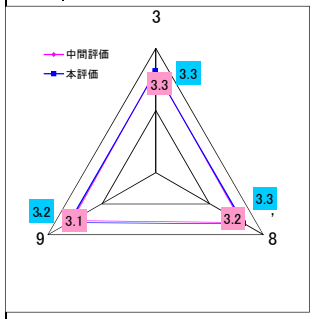
様式4　令和3年度新座市学校評価システム　課題報告書

学校名	新座市立新座小学校
実施日	令和4年1月24日

No.	質　問　項　目		評価結果を踏まえた具体的な改善策	中間評価ポイント 本評価ポイント	評価　A／B／C／D 評価　A／B／C／D
3	学校は、清掃指導や掲示教育をとおして、学ぶ意欲がわくきれいな教室環境を整備している。 （独自）	中間評価	「環境が人を育てる」と考える。教師が率先して清掃活動を行い、「美しい」学校を構築していきたいと考える。そのためにも、「もくもく清掃」を徹底するとともに、清掃の時間は全教職員が清掃する時間として位置づけ、学校全体で環境を整えていきたいと考える。また、各掲示場所の担当を明確にし、学級及び学校の掲示物には動きを与え、児童が興味をもつような環境整備をより推進していく。	3.29	B
		本評価	おやじの会、保護者の協力を得て、定期的に廊下清掃をしている。また、PTA活動として、トイレ清掃を行っていただいており、感謝している。水曜日に掃除を行わない日を設けているが、その日の教室環境が課題となっている。ごみを落とさない、落ちていたら拾う行動を推進したい。掲示物については、動きのあるものをテーマに掲示教育を推進している。今後も、昇降口の掲示物等については、多くの児童の目につく場所なので、より効果的に活用を図りたいと考えている。	3.26	B
8	学校は、各教科の指導において言語活動を充実した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	中間評価	調査項目の中で、例年数値が低いものとなっている。今年度は言語活動の充実については、難しい面もあるが、思考力・判断力・表現力等については、通知表の評価項目となっているものである。本校の校内研修とも関連させて、児童自らが主体的に考えるような学習展開を取り入れていく必要がある。授業研究会での協議の柱として位置付ける等、意図的、計画的に授業での意識化を図っていきたいと考える。	3.22	B
		本評価	年間指導計画に言語活動の充実についての記述を明記して、全教科、全学年で取り組んでいる。授業において、意図的かつ計画的に意味のある話し合い活動を取り入れることで、児童の思考力・判断力・表現力等を育んでいきたい。今後は、タブレット機器を用いた取組をより充実させる必要がある。よりよい活用法について、情報交換する等、研修などで学ぶ機会を設けたい。	3.28	B
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	中間評価	本校の学校課題は、学力向上である。そこで、全国学力・学習状況調査並びに埼玉県学力・学習状況調査の結果を夏季休業中に、学校の教職員全体で把握、分析する。その分析結果をもとに、年間計画の見直し、1単元に配当する時間の見直し等をするとともに、日々の授業で身に付けさせたい力を明確化させ、授業改善に日々取り組む。その検証を学校研究の協議会でテーマにして取り組む。また、朝の学習活動時間の活用も積極的に行う等、児童の実態把握のもと、学校の教育活動全体で考えていく。さらに、学力向上プランについては、課題を踏まえた現実的なものとなるよう、検討を重ねて作成する。	3.14	B
		本評価	・学習指導要領で提唱されている学びの3要素を踏まえた学習については、まだまだ開発の余地はある。研修教科である算数を中心に、研修会を活性化し、内容の理解を深めていきたいと考える。学力や能力の低い児童の指導を個別に行ってはいるが、不十分なところもあり、成果が出ているとは言い切れない。今後は、より個に応じた指導の意識を高めさせ、学力向上を図っていく。	3.21	B



	総　　評
中間評価	中間評価については、昨年度よりも数値が低い項目があった。学校独自に行っている児童アンケート、保護者アンケートの結果は、例年通りの傾向となっているため、学校内での教職員の課題意識が芽生えたことと肯定的に受け止めたい。学校課題としての「学力向上」については、最重要課題として今年度も継続して取り組んでいく必要があると考える。「埼玉県学力・学習状況調査」の結果及び校内研修におけるアンケート結果等をより丁寧に分析し、課題を明らかにした上で、教育活動を展開していきたいと考える。今後は、具体的な改善策を策定し、実践化を図れるよう、教職員の共通理解のもと、日々の授業実践につなげていく。さらに、定期的にチェックを行う等、PDCAのサイクルをより一層改善、徹底を図っていく。
本評価	昨年度と比較してみると、多くの項目で改善が見られる。今後も児童アンケート、保護者アンケートを活用し、学校評価を日々の教育活動につなげられる学校でありたいと考える。学校課題としての「学力向上」については、見直しを図った学力向上プランをさらに活用し、最重要課題として来年度も継続して取り組んでいく。また、校内研修の算数科を柱に、授業改善をより他教科へと波及させる手立てを講じたいと考えている。タブレット端末を有効活用し、教科横断的な学習を推進し、総合的な学力を高めていきたいと考える。